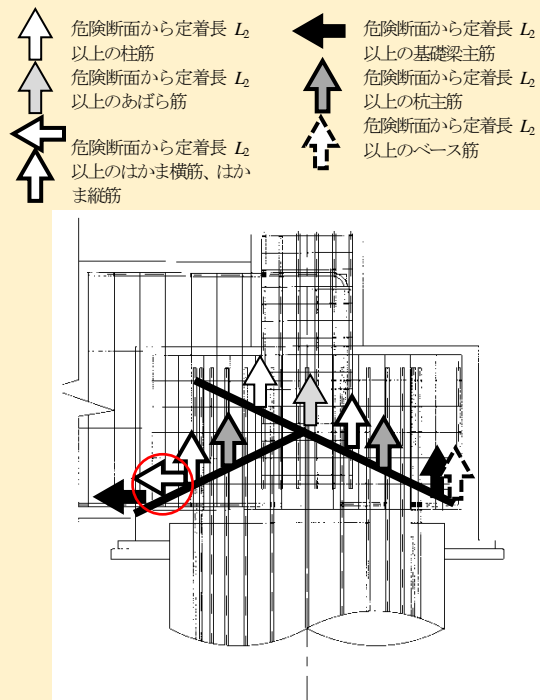








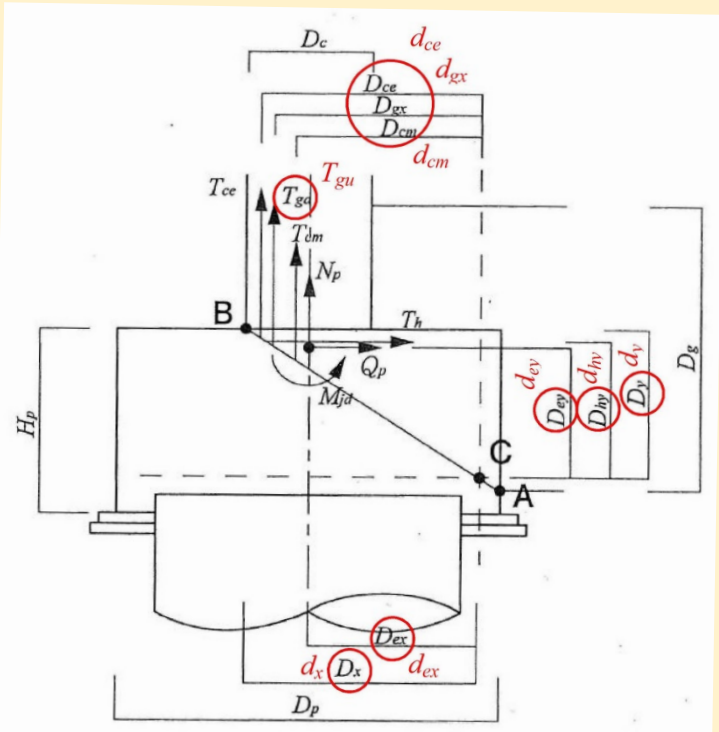
鉄筋コンクリート造基礎構造部材の耐震設計指針(案)・同解説 正誤表

No.	章節項	本文式番号等	誤	正
1	1.2	P.3 上から 18 行目 P.76 上から 19 行目	のみ込み部	のみこみ部
2	2.2	P.88 下から 3 行目	鋼構造設計基準	鋼構造設計規準
3	3.2	P.18 上から 10 行目	…変形解析を行ない、	…変形解析を行い、
4	3.2	P.18 上から 13 行目	…変形解析を行ない、	…変形解析を行い、
5	3.2	P.91 上から 11 行目	…変形解析を行ない、	…変形解析を行い、
6	3.2	P.91 上から 14 行目	…変形解析を行ない、	…変形解析を行い、
7	3.2	p.91 上から 23 行目	…変形解析を行ない、	…変形解析を行い、
8	3.2	P.91 上から 31 行目	…変形解析を行ない、	…変形解析を行い、
9		P.92 上から 17 行目	…過大に傾斜したり過大な沈下が生じる。	…過大に傾斜したり過大な沈下が生じたりする。
10	3.3	P.93 上から 9 行目	桁行および梁間方向	けた行および張り間方向
11	4.1	P.95 上から 19 行目	…限定されかつ、適切な…	…限定され、かつ適切な…
12	4.3	P.100 上から 16 行目	解析モデルコード	解析モデルカテゴリー
13	4.4.2	P.107 解説上から 4 行目	降伏に至ると曲げ抵抗の上昇は、設計上期待せず、	降伏に至ると、曲げ抵抗の上昇は設計上期待できず、
14	4.4.3	P.111 上から 5 行目	地下部の層水平力	地下部の水平力
15	4.4.3	P.114 上から 5 行目	照査して終了	確認して終了
16	4.4.3	P.117 上から 15 行目	振動数振ごとの	振動数ごとの
17	5.1	P.133 上から 17 行目	S_d	S_r
18	5.2	P.138 上から 7 行目	3 段目筋以上	3 段筋以上
19	5.2	P.141 上から 2 行目	変形能	変形性能
20	5.4.1	P.162 上から 4 行目	63 体であり	64 体であり
21	5.4.1	P.174 下から 9 行目	小室 務	小室 努
22	5.5.1	P.41 下から 4 行目 P.203 上から 11 行目	n : ヤング係数比(=5)	n : ヤング係数比($E_s/E_c=5$) E_s : PC 鋼材のヤング係数(N/mm ²) E_c : PHC 杭のコンクリートのヤング係数(N/mm ²)
23	5.5.1	P.207 下から 12 行目	…と(5.5.1)第一項および…	…と(5.5.1)式第一項および…
24	5.5.1	P.212 記号の説明	n : ヤング係数比	n : ヤング係数比(E_p/E_c)
25	5.5.1	P.219 解説図 5.5.15	縦軸が何を示しているか記載がない。	軸方向力
26	5.5.2	P.46 P.222 (5.5.8) 式	σ_g	σ_e
27	5.6.1	P.48 P.233 図 5.6.1 (a)		図 5.6.1 の記号欄に以下を追加 A-B : 危険断面が想定される位置の一端と他端 C : 危険断面での想定圧縮範囲 T : 危険断面での想定引張合力

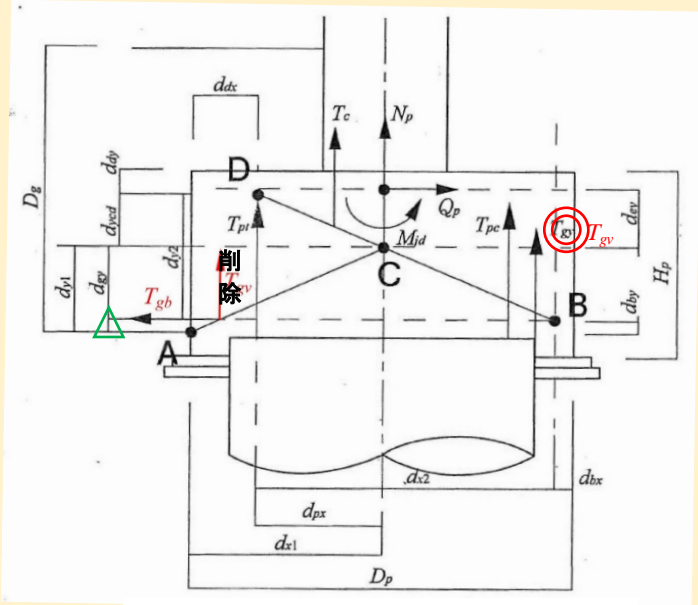
鉄筋コンクリート造基礎構造部材の耐震設計指針（案）・同解説 正誤表

No.	章節項	本文式番号等	誤	正
28	5.6.1	P.49 P.234 (5.6.1) 式		(5.6.1)式の直後に以下を追加 なお、(5.6.1)式には図 5.6.1 中のはかま縦筋、はかま横筋のうち十分な定着長さを有するものについてその効果が一般に大きくないため含めていないが、設計者がこれらを含めたパイルキャップの曲げ強度を計算する場合には(5.6.1)式中の各項に準じてその効果を加算してよい。
29	5.6.1	P.49 P.233 図 5.6.2 (a)		図 5.6.2 の記号欄に以下を追加 A-B：危険断面が想定される位置の一端と他端 C：危険断面での想定圧縮範囲 T：危険断面での想定引張合力
30	5.6.1	P.51 P.235 (5.6.2) 式		(5.6.2)式の直後に以下を追加 なお、(5.6.2)式には図 5.6.2 中のはかま縦筋、はかま横筋、あばら筋、ベース筋のうち十分な定着長さを有するものについてその効果が一般に大きくないため含めていないが、設計者がこれらを含めたパイルキャップの曲げ強度を計算する場合には(5.6.2)式中の各項に準じてその効果を加算してよい。
31	5.6.1	P.49 P.233 図 5.6.2 (b)	はかま横筋の矢印の向きが縦方向になっている	はかま横筋に対応する横向き矢印を図中（赤丸部）と凡例に追加します。  <ul style="list-style-type: none">  危険断面から定着長 L_2 以上の柱筋  危険断面から定着長 L_2 以上のあばら筋  危険断面から定着長 L_2 以上のはかま横筋、はかま縦筋  危険断面から定着長 L_2 以上の基礎梁主筋  危険断面から定着長 L_2 以上の杭主筋  危険断面から定着長 L_2 以上のベース筋

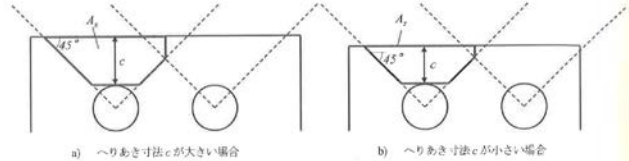
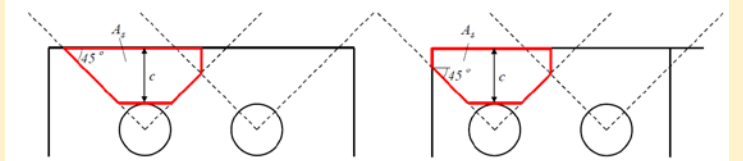
鉄筋コンクリート造基礎構造部材の耐震設計指針（案）・同解説 正誤表

No.	章節項	本文式番号等	誤	正
32	5.6.1	P.51 P.235 図 5.6.3	D_{gx} , D_{ce} , D_{cm} , D_{ly} , D_{ex} , D_{ey} , D_x , D_y	d_{gx} , d_{ce} , d_{cm} , d_{ly} , d_{ex} , d_{ey} , d_x , d_y (下図参照)
33	5.6.1	P.51 P.235 図 5.6.3	T_{ga}	T_{gu} (下図参照)
				 <p data-bbox="1388 1165 1904 1220">図 5.6.3 (5.6.1) 式の記号の説明</p>

鉄筋コンクリート造基礎構造部材の耐震設計指針（案）・同解説 正誤表

No.	章節項	本文式番号等	誤	正
34	5.6.1	P.53 P.236 図 5.6.4		<p>A 点直上の左向き矢印に T_{gb} を追加します。 B 点すぐ左の上向き矢印先端付近の T_{gv} を $T_{gv'}$ に訂正します。 下図中の赤色の上向き矢印（とこれに付随する T_{gv} は追加しません。 なお、A 点の左にある d_{gv} については、左向き矢印より下（下図の緑△印で示した範囲）の部分は不要なので、縦方向の寸法線を短くします。</p>
				 <p>図 5.6.4 (5.6.2) 式の記号の説明</p>
35	5.6.1	P.52 下から 16 行目 P.236 上から 18 行目	σ_{ygv}	σ_{ygv} 添え字中の最後の y を v に修正
36	5.6.1	P.52 下から 12 行目 P.237 上から 1 行目	σ_{ygv}	σ_{ygv} 添え字中の最後の y を v に修正
37	5.6.1	P.52 下から 3 行目 P.237 上から 12 行目	位置(d_{bv})	位置(d_{bv}) 添え字中の b を d に修正
38	5.6.1	P.52 下から 3 行目 P.237 上から 12 行目	位置(d_{bx})	位置(d_{dx}) 添え字中の b を d に修正

鉄筋コンクリート造基礎構造部材の耐震設計指針（案）・同解説 正誤表

No.	章節項	本文式番号等	誤	正
39	5.6.1	P.245 解説表 5.6.3、 ケース番号 20 最下段	判定 OK	判定 NG
40	5.6.2	P.263 解説図 5.6.21 の 凡例	Q_{h1} , Q_{h2}	Q_{h1} , Q_{h2}
41	5.6.2	P.270 解説図 5.6.32 の タイトル	β_b	β_b
42	5.6.2	P.280 解説図 5.6.42	 <p>解説図 5.6.42 杭埋込み部せん断破壊に対する有効面積 (接合法B：隣接する破壊面が重複する場合)</p>	
43	6.2.1	P.284 上から3~4行目	…杭頭部の主筋降伏曲げモーメント M_y 以降は回転ばねで変形性能を評価するため、 M_y 以降の…	…杭頭部の M_u 以降は回転ばねで変形性能を評価するため、 M_u 以降の…
44	6.3	P.304 (解 6.3.1) 式	p_y	P_y